

セルロイド人形 パープー (続)



この写真撮影は、昭和25(1950)年頃です。
東京都葛飾区のセルロイド加工業・小林大八工場の従業員一同です。皆さんの笑顔がとても楽しそうですね。

前列右端の下駄履きの女子(パープーを抱いている)と、その後のパープーを抱いたオバサンと2人を拡大してみました。パープーの大きさが想像できます。少女は小学校4年生くらいに思われます。

小説家・豊田正子も20年前の昭和8年3月、小学校4年生の時に、この大八工場でセルロイド人形・パープーの彩色のアルバイトをしていました。その時のことを書いた「綴り方教室」が映画化されて豊田は有名人になりました。

(町の文化と歴史をひもとく会『木根川の歴史2』P118著者・石戸輝久さん著・豊田正子・文章挿入写真を引用)

この写真の昭和25年の日本は、まだマッカーサー連合軍総司令官(GHQ)の占領下であって、貧しく、毎日の食べ物に窮し住宅難の時代が続いていました。時の大蔵大臣・池田勇人が、貧乏人は麦飯を食えと言ったので日本国中が大騒ぎになったことなどもありました。

こんなGHQの占領下であって、セルロイド玩具の輸出が日本国家の財政に大きく貢献していました。

特に、大八さんのロゴマークと Made In Occupied Japan

の文字が背中に刻印された「セルロイドのパープー人形」はアメリカ人の人気の的でした。日本製パープーは金髪の白人少女です。

* パープーの語源は pa·poose (アメリカインディアンの赤ん坊)。

**小物のセルロイド玩具の加工は、セルロイド生地を適当な寸法に裁断した2枚を材料にして表裏2種の金型を使って行います。

昭和25年1月1日から JHQ が関与していた輸入に関してのみ、民間貿易が実施されるようになりました。

当時の為替レートは 1ドル=360円でした。

東京葛飾区の銭湯で12歳以上の入浴料金は、昭和元年から12年の間は5銭~6銭でしたが、昭和23年~26年には10円~12円です。桁が違ってしまいました。ですから昭和12年までのセルロイド輸出額と昭和25年との金額計算は一応ではありません。

この昭和25年5月、セルロイド生地メーカー・大日本セルロイド(株)は東京工場のセルロイド製造設備を増設(月産40トンに)。昭和27年、映画「男はつらいよ・寅さん」の主演俳優の渥美清(本名・田所康雄)が、東京工場の倉庫係として採用されセルロイド生地を担いでいました。

昭和25年6月25日朝鮮戦争が勃発。7月8日 マッカーサー総司令官、警察予備隊(現・自衛隊)を創設。11月21日、GHQ、朝鮮戦争勃発以来の特需累計を発表(1億4千万ドル)。

朝鮮戦争から故国へ帰還する船に、将兵が買ったお土産の Made in occupied japan のパープーが一沢山積まれてあった、ということです。



セルロイドサロン前回の裸のパープーに、横浜館の菅野さんがドレスを着せて下さいました。4体とも背中の刻印が亀マーク(中島製作所さん=現・中島コーポレーション)です。

* 次回・パープー続々です * H27.1.22